

北九州市 学力・体力向上アクションプラン  
～ 21世紀を生きる子どもたちのために～

[平成28年度～平成30年度]

平成28年3月  
北九州市教育委員会



## はじめに

<これからの時代を生きる子どもたちに求められる力>

将来の変化を予測することが困難な時代を前に、「今の子どもたちの65%は将来、今は存在していない職業に就く」、「今後10～20年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高い」などの予測がなされており、加速度的な社会の変化は、全ての子どもたちの生き方に影響するものであると指摘されています。

このような変化の中で生きていくこれからの子どもたちには、社会的・職業的に自立して生きていくために、①伝統や文化に立脚しつつ、高い志と意欲をもって、蓄積された知識を礎としながら、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断していくことや、②自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことなどが求められています。

そのためには、「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」のみならず、「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」といった資質・能力のバランスのよい育成が必要となります。

こうした新しい時代においても、職業の選択肢を広げて、夢や希望に近付いていくために必要な力を、北九州市の子どもたちに身に付けさせていくことは、21世紀を生きる子どもたちに関わる私たち大人の責務です。

<北九州市のこれまでの教育とその課題>

北九州市の教育は、これまで、学校での学習等を通じて、知・徳・体の調和のとれた子どもたちの育成を行ってきました。上記のことから子どもたちに求められることに照らしても、今後も、これらの3要素をバランスよく身に付けさせることが必要なことは言うまでもありません。

しかしながら、基礎的な学力を十分に身に付けないまま高等学校に進学した生徒が、小学校段階まで立ち返って「学び直し」を行っているという現実があります。また、今日の子どもたちの体力は昭和60年をピークとして全国的に依然として低い水準にとどまっており、子どもたちの体力の低下が進むと、将来的に国民全体の体力低下につながり、社会全体の活力や文化を支える力が失われることにもなりかねません。

国が実施する「全国学力・学習状況調査」や「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果は、北九州市の子どもたちの学力と体力の厳しい現状をただ単に示しているだけではありません。子どもたちや学校への質問紙調査の結果からは、子どもたちの関心・意欲や自尊感情、生活習慣・運動習慣・家庭学習の習慣、学校での指導方法等について課題が見られます。

もちろん、こうした調査で私たちの教育活動の全ての側面を捉えることはできませんが、重要な一側面を明らかにしていることも事実です。調査結果、特に質問紙調査の結果を1つのバロメーターとして真摯に受け止め、これまでの取組を振り返ることが必要ではないでしょうか。

### <これからの北九州市の教育の在り方>

授業に関しては、「すべての教師のための授業改善ハンドブック」において、そのあるべき姿を『わかる授業』として示してきました。これは子どもたちの意欲に基づく主体性を基盤としながら、知識・技能とその活用力を身に付けさせるとともに、生涯にわたる学ぶ力や運動に親しむ資質・能力を育て、主体的に問題解決等を行う態度や、豊かなスポーツライフを実現する態度を育成しようとするものです。

『わかる授業』では、子どもたちが自発的にもった問いや課題（授業の「目標」）に対して、一人でじっくり考えるだけでなく、話し合う活動等を通じて学びを深め、その解決を図るものです。このことは、将来の変化を予測することが困難な時代に求められる「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）」とも通じるものです。

また、こうした学びは、今日の学校教育において重要な位置を占める生徒指導や特別支援教育の観点からも意義あるものと言えます。前者の観点からは、考える場や表現する場等の設定が、自己決定の場を与える、自己存在感を実感させる、共感的人間関係を育成することにつながります。また、後者の観点からは、授業の「目標」の明示等が、授業のユニバーサルデザイン化にもつながります。

「生きる力」にとって、「心の育ち」、「確かな学力」、「健やかな体」は重要な要素です。本アクションプランは、「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」の実現に向けて、特に「確かな学力」と「健やかな体」の育成について、平成28年度から平成30年度までの3年間で重点的に推進する具体的な取組を示したものです。

未来を担う北九州市の子どもたちのために、今後とも、学校関係者、家庭・地域が一丸となって、より一層実効性のある取組を進めていきましょう。

平成28年3月  
北九州市教育委員会

# 目 次

北九州市学力・体力向上アクションプランの概要	1
------------------------	---

## I 学力向上

### 1. 本市の学力の現状と課題

(1) 本市の児童生徒の学力の現状	3
(2) 学力向上に向けた現状の分析と本市の課題	4
【柱1】全校体制でのPDCAサイクルの確立	4
【柱2】指導力向上のための日々の継続的な取組	6
【柱3】学力定着に向けた協働的な取組	11

### 2. 具体的な学力向上の取組

【柱1】全校体制でのPDCAサイクルの確立	13
【柱2】指導力向上のための日々の継続的な取組	16
【柱3】学力定着に向けた協働的な取組	19

## II 体力向上

### 1. 本市の体力の現状と課題

(1) 本市の児童生徒の体力の現状	21
(2) 体力向上に向けた現状の分析と本市の課題	23
【柱1】全校体制でのPDCAサイクルの確立	23
【柱2】学校での授業の充実と運動習慣の確立	25
【柱3】生活習慣・運動習慣の確立に向けた協働的な取組	28

### 2. 具体的な体力向上の取組

【柱1】全校体制でのPDCAサイクルの確立	30
【柱2】学校での授業の充実と運動習慣の確立	32
【柱3】生活習慣・運動習慣の確立に向けた協働的な取組	33

## 北九州市学力・体力向上アクションプランの概要（学力向上）

【目標】加速度的に変化していくこれからの社会において、子どもたちが社会的・職業的に自立して生きていくために必要な力を身に付けさせていくことが必要です。「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」の実現を目指して、以下の3つの柱を実施し、教員の指導力向上や家庭での生活習慣・家庭学習習慣の充実などを図り、子どもたち一人一人の学力向上につなげていきます。



### 【今後3年間で取り組む、学校、家庭・地域での具体的取組】

#### 【柱1】 全校体制でのPDCAサイクルの確立

- PDCAサイクルに基づく学校の組織的な取組の推進
  - ・各学校における全校体制の確立
  - ・学力調査等の実施と児童生徒への指導の充実
  - ・調査結果等に基づく「スクールプラン」の策定・実施・検証・改善  
〈教育委員会の支援〉
    - ・学力向上学校訪問の充実
    - ・学力向上講習会の充実
    - ・教育センター研修の充実
    - ・「北九州市学力向上だより」による情報提供
    - ・シンポジウム・懇談会等の開催
- 学力・体力向上策をつなぐ教育委員会の体制の確立

#### 【柱2】 指導力向上のための日々の継続的な取組

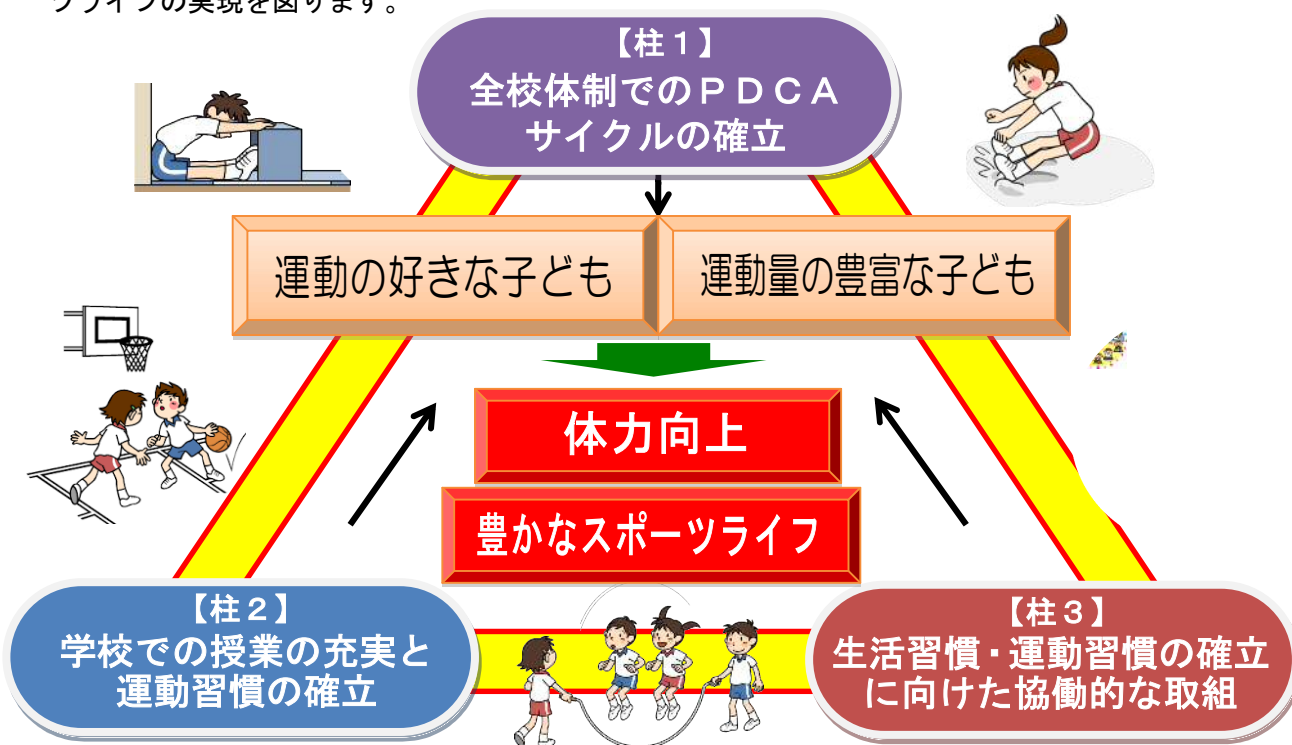
- よい授業イメージの共有と授業を「行う・見る・語り合う・振り返る」活動の日々継続的な実践
  - ・全員研修会及び学校大好きオンリーワン校の公開授業の活用
  - ・動画を活用したWebによる研修の活用
  - ・『わかる授業』づくり5つのポイント」のリーフレット及び点検シートの活用
  - ・「教師のしおり」の活用
  - ・総合的な学習の時間、特別活動、道徳教育の充実やアクティブ・ラーニング等を推進するための資料等の活用
  - ・授業力向上ステップアップ事業の実施  
(学力向上推進教員の配置・派遣、評価問題の改善・充実、校内研修の改善・充実)
  - ・教育研究論文の部門等の見直し ・授業づくり共同研究の見直し
- 教育活動の一層の充実のための取組の推進
  - ・学校図書館教育の充実
  - ・ICTの活用と英語教育の充実

#### 【柱3】 学力定着に向けた協働的な取組

- 児童生徒一人一人へのきめ細かな教育の確立
  - ・学力定着のための学校独自の取組の組織的実施
  - ・学校との連携等による子どもひまわり学習塾の充実
  - ・指導方法工夫改善加配教員等の効果的活用のための工夫
- 学力向上につながる家庭・地域との連携
  - ・家庭学習の指導の充実
  - ・乳幼児期からの望ましい生活習慣づくりなど学びの基盤づくりの取組
- 確かな学力を育む校種間の連携
  - ・小中連携の充実
  - ・保幼小連携の充実

## 北九州市学力・体力向上アクションプランの概要（体力向上）

【目標】 健やかな体の育成のためには、体育・保健体育科の授業等を通じて、幼児期や学齢期に運動やスポーツに親しむ資質や能力の基礎を養い、病気から身を守る体力を強化し、より健康な状態をつくっていくことが大切です。体力は活動の源であり、健康の維持のほか、意欲や気力の充実に大きく関わっており、人間の発達・成長を支える基本的な要素です。「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」の実現を目指して、以下の3つの柱に沿った取組を実施し、「運動の好きな子ども」「運動量の豊富な子ども」を育て、その結果として、体力の向上と豊かなスポーツライフの実現を図ります。



### 【今後3年間で取り組む、学校、家庭・地域での具体的取組】

#### 【柱1】 全校体制でのPDCAサイクルの確立

- 測定についての正しい理解に基づく、新体力テストの全学年・全種目実施による体力の実態把握（実施方法のDVDと好事例の配信、実技講習会の開催、校内研修等）
- 調査結果等に基づく「スクールプラン」の策定・実行・検証・改善と家庭への調査結果提供
- 体力・学力向上策をつなぐ教育委員会内の体制の確立

#### 【柱2】 学校での授業の充実と運動習慣の確立

- 体育・保健体育科授業の準備運動等での「北九州市体力向上プログラム」の活用
- 楽しみながら身に付ける体育・保健体育科授業の構築（管理職・主幹教諭・指導教諭・学力向上推進教員及び指導主事による指導助言）
- 「1校1取組」による年間を通した運動習慣の確立（体力の状況・取組が記録できる「北九っ子体力向上シート」等の活用、スポコン広場への参加、なわとび運動、持久走、ダンス等を年間を通して継続的に実施）

#### 【柱3】 生活習慣・運動習慣の確立に向けた協働的な取組

- 「早寝・早起き・朝ごはん運動」、「ケータイ・スマホ夜10時オフ」の推進
- 保健学習の指導の充実による健康3原則の正しい理解と家庭における実践
- 家庭・地域において、運動を「する・見る・話す」機会づくりのすすめ

